

「史跡の風景」第4回

古代相模の中枢 相模国庁跡



西側の歩道橋より相模国庁跡を望む

今から約1300年前、ヤマト政権は基本法令である「大宝律令（たいほうりつりょう）」を作り、本格的な法治国家の体制を整備します。地方には道・国・郡・郷という行政単位を設けました。各国には支配の中心となる政庁である「国庁」が設置されました。国庁の周囲には政治の実務を執る官庁街が作られ、役人たちの住まいが建てられます。さらに生産や物流を担う建物とそこに働く人々の住まいが立ち並び、全国に「国府」という「まち」が形成されていったのです。

さて、奈良時代から次の平安時代にかけて相模国の国府がどこにあったのか、永らくその所在地がわかっていませんでした。しかし、昭和50年代以降の発掘調査によって平塚市内の真土・四之宮地区に膨大な量の土器や建物跡が眠っていることが明らかになってきました。出土する資料には文字を書き記した土器や、当時の高級品である陶器や金属製品も多く含まれ、一般庶民の集落とは異質な都市空間の様相が姿を現してきたのです。ただ、国府の所在を確定するためには肝心の国庁跡を確認する必要があります。国庁の空間は南向きに建てられた東西方向の「正殿」とその南側の東西に相對する2棟の「脇殿」、そしてこれら3棟の建物に囲まれた広場で構成されます。国庁跡の確認と国府所在地の確定には、これらの特徴を備える建物跡の発見が欠かせないのです。

そして平成16年、湘南新道の建設に伴う発掘調査において



相模国庁跡の中央に位置する
大念寺前交差点

大型の建物跡2棟が検出されました。約80mの距離を隔てて東西に向かい合う建物は廂（ひさし）を持つ格式の高い建物で、「国庁の脇殿」と断定されました。しかし、残念ながら両脇殿が確認されたのは八王子道と湘南新道が交わる大念寺

前交差点の東側と西側、つまり国庁跡の真上を幹線道路が通っていたのです。貴重な建物跡は現地見学会で多くの市民に公開されましたが、その後遺構を保護して埋め戻され、道路の下に保存されました。現在、西の脇殿の位置を交差点の南西側の歩道上に白い舗装で示し、説明板を設置しています。



国庁跡の説明板と色分けで示された脇殿の位置

古代の政権にとって、足柄峠を越えて最初に訪れる相模国は坂東諸国の入口であり、さらにその先にある東北地方経営のための重要な基点だったはずで、その相模国の中心である相模国庁は、国域のほぼ中央に広がる湘南砂丘の一角、大河を見下ろす場所に建てられました。国庁跡の東側は今も相模川に向かって道が大きく下っていきます。相模国庁は情報と物流の拠点にふさわしい、水上交通と陸上交通の十字路に作られた古代都市のシンボルだったのです。

(平塚市博物館学芸員)



現地見学会で公開された国庁東脇殿の柱穴跡

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活かされます。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願いいたします。

(電話 0463-32-2235)

平塚市文化振興基金にご寄附をいただいた方

H24.9月からH25.1月まで(敬称略)

- 湘南新舞踊協会 (24.9.11)
- 平塚市ビルメンテナンス業協同組合 (24.12.5)
- 竹遊会 (24.12.20)
- 湘南ステーションビル株式会社 (25.1.29)

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成25年(2013年)2月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています